

(健Ⅱ160F)

令和元年11月17日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

釜 菫 敏

### 侵襲性髄膜炎菌感染症の発生について

今般、オーストラリア在住の者1名が、日本で侵襲性髄膜炎菌感染症を11月10日に発症した例が報告されたことから、別添のとおり厚生労働省より本会に対して周知協力方依頼の事務連絡がありました。

厚生労働省によると、疫学調査を実施した結果、感染が広がる可能性は低いと考えられるが、患者の行動歴において一部詳細が明らかになっていない部分があるとしています。また、患者は11月4日に東京発着（推定）の富士山バスツアーに参加しているが、ツアーの詳細が不明のため、当該ツアーの参加者を把握できていないとしています。

本事務連絡では、医療機関に対して、髄膜炎様症状のある者を診察する際には、患者の行動歴等を踏まえ、必要に応じて侵襲性髄膜炎菌感染症を念頭においた診療を行っていただき、感染が疑われる事例については、速やかに保健所への情報提供を行っていただくよう依頼がなされております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会、関係医療機関等に対する周知協力方ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

事 務 連 絡  
令和元年 11 月 15 日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

侵襲性髄膜炎菌感染症の発生について（協力依頼）

日頃から感染症対策への御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今般、オーストラリア在住の者 1 名が、日本で侵襲性髄膜炎菌感染症を 11 月 10 日に発症した例が報告されました。疫学調査を実施した結果、感染が広がる可能性は低いと考えられますが、患者の行動歴において一部詳細が明らかになっていない部分があります。患者は、11 月 4 日に東京発着（推定）の富士山バスツアーに参加したとのことですが、ツアーの詳細が不明のため、当該ツアーの参加者を把握できておりません。

侵襲性髄膜炎菌感染症は、日本国内では年間 35 例前後報告されており、容易には感染しない疾患ですが、飲み物の回し飲み等により、感染者の唾液やしぶき等の飛沫に非常に濃厚な接触があった場合には、感染のリスクがあります。

つきましては、このことを御了知の上、貴会会員への周知を図っていただくとともに、髄膜炎様症状のある者を診察する際には、患者の行動歴等を踏まえ、必要に応じて侵襲性髄膜炎菌感染症を念頭においた診療を行っていただき、感染が疑われる事例については、速やかに保健所への情報提供を行っていただくようお願いいたします。